語研だより

313号　2015/6

2015年6月15日発行

一般財団法人 語学教育研究所
The Institute for Research in Language Teaching
〒116-0013　荒川区西日暮里 6-36-13-102
6-36-13-102Nishinippori,Arakawa-ku, Tokyo 116-0013
TEL 03-5901-9214
FAX 03-5901-9215
http://www.irlt.or.jp/

2015年度研究大会　11月14日（土）・15日（日）
東京家政大学板橋キャンパスにて

今年も東京家政大学板橋キャンパスをお借りして開催することになりました。各研究グループや運営委員会も精力的に動き始めています。今年度のご予定にお入れ下さい。

『語研ジャーナル』第14号　「読者の声」投稿のおさそい

英語教育が大きく動こうとしています。そんな中、毎日の教室での営みをしっかり見つめることが、ことさら大切に感じられます。教室をめぐる教師と学習者の「今」をぜひお聞かせください。多くの原稿の到着をお待ちしています。

原稿は35文字×30行×1ページを上限とし、締め切りは9月30日です。メール (journal@irlt.or.jp)、ＦＡＸ、郵便で受け付けます。お待ちしております！

（『語研ジャーナル』編集室　粕谷 恭子）

読書会休会のお知らせ

都合により6月と7月の2回は休会となりました。8月は22日（土）に開催予定です。興味のある方、参加ご希望の方は久保野 rkubono@js8.so-net.ne.jp までメールにてご連絡ください。会員・非会員を問わず参加できます。

※ 語研だよりの封筒に記載されております宛名マーク（◇未納、◆納入済）をご覧いただき、会費未納の方は下記の口座にお支払いいただきますようお願い致します。
会費振込先　口座名義　一般財団法人語学教育研究所　・郵便振替 00100-0-68007
・三菱東京 UFJ 銀行春日町支店（普通）0352938　・みずほ銀行本郷支店（普通）1499931

今後の行事予定

7月11日（土）　基礎講座2015「英語の授業は英語で－中学でも高校でも－」前期第3回
「導入（題材内容中心）」　講師　江原 一浩　於：筑波大学附属高等学校

8月6日（木）～8日（土）　基礎講座2015「英語の授業は英語で－中学でも高校でも－」夏期集中講座
於：語研研修室

今月のエッセー　教育の内容は誰が決めるのか？　田島 久士 2
指導技術Ｑ＆Ａ　「大学附属高校の教員です。大学の先生から『学力が低い』…」　由井 一成 3
「語研・小学校英語指導者養成講座」第10回セミナーのお知らせ 4
英語でチャレンジ2015報告 5
学生研修室報告 6

今月のエッセー

教育の内容は誰が決めるのか？

田島 久士

昨（2014）年 11 月 20 日に、下村博文文部科学大臣は中央教育審議会（以下、「中教審」）に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問した。教育に携わっている者であれば、これが「何についての諮問なのか？」は愚問であろう。

そこで、今回は「戦後 70 年」でもあるので、最初の『学習指導要領』の中身を見てみることにする。以下が、1947（昭和 22）年 3 月 22 日に発行された『学習指導要領 一般編（試案）』の「序論」の一部である。引用する。

一 なぜこの書はつくられたか

（前略）

これまでの教育では、その内容を中央できめると、それをどんなところでも、どんな児童にも一様にあてはめて行こうとした。だからどうしてもいわゆる画一的になって、教育の実際の場での創意や工夫がなされる余地がなかった。このようなことは、教育の実際にいろいろな不合理をもたらし、教育の生気をそぐようなことになった。たとえば 、四月のはじめには、どこでも桜の花のことをおしえるようにきめられたために、あるところでは花はとっくに散ってしまったのに、それをおしえなくてはならないし、あるところではまだつぼみのかたい桜の木をながめながら花のことをおしえなくてはならない、といったようなことさえあった。また都会の児童も、山の中の児童も、そのまわりの状態のちがいなどにおかまいなく同じことを教えられるといった不合理なこともあった。しかもそのようなやり方は、教育の現場で指導にあたる教師の立場を、機械的なものにしてしまって、自分の創意や工夫の力を失わせ、ために教育に生き生きとした動きを少なくするようなことになり、時には教師の考えを、あてがわれたことを型どおりにおしえておけばよい、といった気持におとしいれ、ほんとうに生きた指導をしようとする心持を失わせるようなこともあったのである。

（後略）

これを読んで、今教育現場にいる者、教員・教師 (または、これから教育に携わろうと考えている人、例えば、学生・教職課程履習者) はどう感じたのだろうか？ 考えたのだろうか (一部の教職の授業では扱われたり、扱っているのは知ってはいるが) ？ 実は「戦後 70 年」だから、長々と引用したのではない。例えば、江利川春雄氏が「専門家不在の政策決定」（『現代思想 (2015 年 4 月号)』）と述べたり、「中教審委員『結論ありきの雰囲気』（『毎日新聞 (2015 年 5 月 25 日)』）と書いているように、本来ならば、目の前にいる学習者（児童・生徒・学生）に接して、教授者が判断して、「教育の内容を決める」べきものなのである。これが教育の「あるべき姿」と考える。「ことばの教育」であれば、それが最も必要だと考えるからである。このままでは、「エリート作り」だけに手を貸すことになりかねない。

（研究所理事／東京都大田区立糀谷中学校）

指導技術 Q & A

Q：「大学附属高校の教員です。大学の先生から『学力が低い』『基礎力がない』と言われます。どうすればよいでしょうか？」

由井 一成

A: 現場の教員に対する授業への意見は、保護者、同僚教員、塾関係者など様々なところから届きます。一貫校の場合は隣接する学校から意見を述べられることも珍しいことではありません。

さて、教員として忘れてはならないのは、授業は誰のために行っているのかという点です。授業を受けているのは目前の生徒であり、生徒が効果的に英語力を育成できるよう努力するのが教員としての役割といえるでしょう。保護者や他機関の言いなりになりその意見を鵜呑みにするのが本当に良い姿勢といえるかどうか、その点については十分な注意が必要です。そもそも生徒周辺の大人達は多種多様な考えを持つ人々の集まりです。個々の要求に応じていたら収拾がつきません。まずは前提として、生徒本位の視点から授業を考えるという発想が根本にあるべきでしょう。

一方で、こういった意見に耳を傾けないというのも望ましい姿勢とは言えません。そのような意見は理由があって出されているのでしょうから、傾聴に値するものです。その指摘が当を得たものであり、生徒の学力向上につながる意見であると考えるならば、謙虚な姿勢で受け止め、改善を目指す姿勢も大切です。

今回の質問者は、一見大学側からかなり辛辣な批判を受けているように見受けられますが、大学側は本当にそのような意図をもって発言しているのでしょうか。大学側の真意を知る必要があります。学力が低く基礎力がないから「基礎力をつけ学力を高めてほしい」なのか、「進学させないでほしい」なのか、それによって対応の仕方は変わってきます。仮に学力の向上を求められているのであれば、大学側が示す「学力・基礎力」とは何を示しているのでしょうか。文法力？語彙力？会話力？読解力？外部試験の成績？この点についてよく意見を交換する必要があるでしょう。大学側の意図と高校側の受け止め方がすれ違ってしまうと、納得してもらうことは難しいと思われます。ですから主張の内容を十分に理解しあえるよう、相互に対話をすることが基本です。

ひとたびその意見を受け止めるという結論に至ったのであれば、高校の教員間でも要求内容について正しく理解し共通認識をもって授業の改善に取り組むことが必要かと思われます。教員間の意思疎通は授業に限らずあらゆる場面において必要とされます。一丸となって目的に取り組めば、大学の要求に沿う形で生徒の学力向上を図ることが可能となってくるのではないかと思います。

最後に、外部からの意見というのは、学校に対する期待であることが多いと思います。同一組織からの意見というのは概してその傾向が強いのではないでしょうか。ぜひ主従関係や敵対関係といった概念を取り払って、共同体としての意識を相互に持ちましょう。納得させる・させないではなく、生徒の明るい未来という共通の目標に向かって協力関係を作っていくことが何より大切です。

（研究所研究員／日本女子大学附属高等学校）

「語研・小学校英語指導者養成講座」第 10 回 セミナー
～ みんなで「文字指導」について考えてみよう ～

小学校英語指導者養成講座の第 10 回セミナーを下記の要領で開催いたします。今回は、英語を身に付け始めた子どものための「**文字指導**」に焦点をあててみることに致しました。2020 年に向けて小学校英語を教科とする準備が進んでいます。小学校英語の実践にあたって、改善すべき課題は多々ありますが、その中の一つである文字を扱う指導の数々を皆様とご一緒に試しながら考えてみましょう。

指導者資格認定にも是非ご応募いただけますようお願い申し上げます。応募要項など詳しいことは、当研究所ホームページでご確認ください。

記

日　　時：　2015 年 8 月 22 日（土）　9:30 ～ 16:15　（受付開始：9:10）
会　　場：　成城ホール集会室 C,D（世田谷区砧区民会館内・世田谷区成城 6 － 2 － 1）
小田急線「成城学園前」駅　徒歩 4 分
主　　催：　（一般財団法人）語学教育研究所
参加定員：　90 名（先着順）
申込方法：　当研究所ウェブサイトで 8 月 21 日（金）12：00 正午まで（URL: http://www.irlt.or.jp）
◆申し込み後取り消される場合には、他の参加希望者のために、予約した際に送られてきたメールに書かれた手順に従って必ずキャンセルの手続きをして下さい。
参 加 費：　語研会員　1,000 円・非会員　2,000 円　当日受付でお支払いください。
◆問い合わせ : TEL: 03-5901-9214（月火木金 11:30-16:30）

プログラム

		内　容	担　当
	9:10 ～	受付開始	
	9:30 ～	開会 あいさつ	佐藤 令子（東京国際大学）
1	9:35 ～ 11:00	何から始める？文字指導① 「文字への気づきを促す」 「慎重に進める導入期の活動」	久埜 百合（元中部学院大学） 渡辺 麻美子（成城学園初等学校・カリタス小学校）
2	11:05 ～ 11:45	★資格認定授業実演	
3	11:45 ～ 12:15	プログラム 1 の活動の実技練習	相田 眞喜子（田園調布雙葉小学校） 渡辺 麻美子（成城学園初等学校・カリタス小学校）
		認定委員会報告	
	12:15 ～ 13:00	昼食・休憩	
4	13:00 ～ 13:55	何から始める？文字指導② 「身の回りにある文字を使って」 ～読めるような気がする素地を養う～	相田 眞喜子（田園調布雙葉小学校）
5	14:00 ～ 14:55	何から始める？文字指導③ 「教科になった時の文字指導とは？」 ～子どもの推理力を培う～	久埜 百合（元中部学院大学）
6	15:00 ～ 16:10	小学校英語で指導しておきたい“文字を使う　コミュニケーション能力”について 皆で考えましょう	司会 佐藤 令子（東京国際大学）
	16:10 ～ 16:15	参加証配布、閉会 あいさつ	佐藤 令子（東京国際大学）

★小学校英語資格認定の応募状況などによって、プログラムの変更があります。

一般財団法人　語学教育研究所　主催

「英語でチャレンジ２０１５」報告

研究の成果が満載！

第 10（小学校英語教育）研究グループ主催の「英語でチャレンジ 2015」が 5 月 31 日、成城学園初等学校社会科学習室で行われた。同活動は、15 年以上前にスタートした「英語であそぼう」がベースになっており、09 年からは 5、6 年生を対象にした「英語でチャレンジ」に名前を変え、今回は、中学年からの英語活動開始が検討されていることを背景に、4 年生が活動対象に選ばれた。

参加児童は同校の 4 年生 13 人。参観にきた小中学校教員や英語活動支援者、学生など大人たち 40 人の視線を背後に感じながら、授業はスタートした。まずは *Seven Steps* でウォームアップ。お馴染の歌だが、口の動きで子どもたちに歌の題名を当てさせることで注意を引く。

活動 1 は、have がテーマ。実際に持ってきた文房具を使って“I have two pencils.”“Ah! You have a nice pencil case!”などとやり取りしながら I have …の意味を把握した後、えいごリアンを視聴。動物の絵カードを使ってのビンゴ・ゲームのころになると、引っ込み思案の子どもの顔からも「ビンゴ！」に喜ぶ笑顔が出始め、“I have a snake!”など自発的な発言が聞かれた。活動 2 の Story Time では、活動 1 の応用を踏まえて、have を使った文が多く登場する *Stone Soup* が選ばれた。大判のビッグ・ブックが手に入りにくいという現状を配慮し、通常サイズの本を書画カメラでスクリーンに映し出す方法が用いられた。share や visitor など、小学校レベルでは難しそうな単語が少なくなかったが、「石ころスープなんて、気持ち悪い」という感想があがっていたということは、絵の鮮明さや読み手の表現力、意志疎通でかなり理解できていたということだろう。

休憩で気分転換をし、活動 3 の Arts and Crafts では「変わり絵」に挑戦。2 人の指導員が、Fold it in half. や Make a crease. などの表現を使い、楽しくやり取りを交わしながら作り方の見本を見せた。子どもたちには一番好評だったようだ。

全体を通して和やかで温かみのある雰囲気が感じられたのは、先生方が英語教師であると同時に、本心から子どもが大好き！だからに違いない。子どもの心理を熟知し、長年の研究の成果がすべてのアクティビティに活かされていた。

（個人教室指導　上田 都）

学生研修室報告

「教育実習に行く前に」

4 月 25 日（土）　講師：馬場 千秋（帝京科学大学）

教育実習への抱負　　今回、馬場先生のセミナーに参加して教育実習についてより具体的なお話を聞くことが出来ました。特に教育実習を通して、自分自身をどう成長させることが出来るのか、そしてこれから始まるこの貴重な体験を将来へどう結びつけるのかを改めて考えさせられました。

今回のセミナーで馬場先生より実習中の過ごし方やどのような服装を着るべきか、そして実習先は実習生のことをどう思っているなど沢山の具体的なお話があり、とても役に立ちました。中でも実習先は実習生のことをどう思っているのか、というお話がとても印象的でした。

教育実習はこれから社会に出ていく私にとって必要かつ大変貴重な経験になると思います。しっかり教材研究を行って授業に臨み、先生方からご指導をいただくことで、実りのある教育実習をし、人間的に成長していきたいと思います。2 週間という短い間ですが、今回のセミナーを通して学んだことを糧に高校の教員として働く自覚と誇りを持って頑張ります。

（大東文化大学 4 年　アシュラフ・イスマイル）

「英語で進める魅力ある授業づくり」

5 月 9 日（土）　講師：吉田 章人（日本女子大学附属高等学校）

研修の概要　　教育実習を目前に控えた大学生を対象に、教師としての心構えや英語授業を行う上で知っておくべき言語学習の理論や指導技術について、講師の吉田氏による講義を中心に研修を行った。

内容としては、前半は教育実習を目前に控えた学生のために、吉田氏より、教師は英語がきちんと生徒に伝わるように役割を果たすことが求められるという英語授業の 3 要素の説明や、「教える」とはどんなことかということで、山本五十六の「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ。」という言葉の紹介があり、それをもとに、実際の授業ではどの場面かをディスカッションして考えた。

後半では理論的な講義や演習があった。H.E. Palmer による言語学習の三段階（①了解（照合一致）②融合（結合合体）③総合活用）や、基本三原則・三段階を生かした授業構成ということで、オーラルメソッドの基本三原則（①音声→文字 ② 概要→詳細 ③ インプット→アウトプット）について模擬授業や講義でわかりやすく示して頂いた。そして、Oral Introduction の事柄、指導技術、板書計画、準備のためのチェックリストについて講義があった。吉田氏が実際に模擬授業を通して、Oral Introduction について受講者を生徒役として巻き込みながら、わかりやすく説明して頂いた。

教育実習を控えた学生対象の研修であったが、現職の教員にとっても英語で進める魅力ある授業とは何か、吉田氏の温かくわかりやすい講義や演習を通して学ぶことが多かった研修会だった。

（坂戸市立城山小学校　畑仲 泰之）

編集後記

他学会の話で恐縮ですが、先月その会の活動の一環で勉強会を立ち上げる機会がありました。

知り合いが全くいなかった土地に来て 9 年目になるのですが、実家と同じ地方とはいえ、8 年と数ヶ月前には何もなかった人とのつながりが少しずつ広がって一つの形ができたことに、個人的にすごく感じるものがありました。

イチロー語録の一つに「特別なことをするために特別なことをするのではない、特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする」という名言がありますが、改めて普段の地道な活動や人とのつながりの大切さを感じています。同時に、勉強会を 20 年以上続けられていた恩師のエネルギーのものすごさも痛感しています。　（W）